

## 第 24 回医療薬学公開シンポジウム開催報告

北海道医療大学薬学部 薬剤学講座  
齊藤 浩司

第 24 回医療薬学公開シンポジウムは、メインテーマを「薬学 6 年制教育における医療現場と教育現場の連携を目指して」と題して、平成 18 年 10 月 15 日(日)に北海道大学学術交流会館にて開催いたしました。当日は北海道各地の病院薬剤師ならびに保険薬局勤務薬剤師、北海道内薬系 3 大学の教員・学生、また本州からも参加を頂き、192 名が熱心に討論に参加しました。

薬学 6 年制は社会の様々な期待の中で始まりましたが、不透明な部分や早急に解決しなければならない課題が残されており、プラス 2 年の教育年限延長の中で、今、薬学出身者あるいは薬学関係者に突きつけられている大きな課題は、「医学、歯学、獣医学と肩を並べることになった 6 年制教育を通して、これからの医療の中で薬剤師の職能をいかに進化させるか」であると思われます。大学教員がこれまで以上に努力と研鑽を重ねて学生教育に当たらねばならないことはいうまでもありませんが、医療現場と教育現場が双方向的な繋がりを強化し、多くの課題に取り組んでいかなければなりません。特に 6 年制教育の核心である長期実務実習は、医療現場の先生方の全面的なご支援とご協力がなければ達成することは不可能です。また、高度医療における社会のニーズに薬剤師が応えていくためには、4 年制教育を修めた薬剤師のスキルアップのための生涯教育と、薬学という学問体系をさらに活用した業務の展開も今後ますます重要となります。これらの推進のためには、大学は積極的にその責務を果たすことが求められており、医療現場と教育現場の連携をさらに密にしていく上で、実務家教員の役割は極めて重要なものとなります。このような背景から、本シンポジウムでは、薬剤師としての実務経験を有する北海道内薬系 3 大学の教員(教官)、ならびに病院あるいは保険薬局において長年実務実習に関わってこられた薬剤師の先生方にご講演をお願いしました。

まず最初に、「薬学 6 年制教育がめざすもの」と題して、北海道大学大学院薬学研究院の井関健先生に基調講演を頂きました。その中で、質の高い薬剤師(スーパーインテリジェント薬剤師)を創生するためには、単に臨床薬学教育を充実させるだけではなく、生涯にわたって学習し続ける上での基盤(研究展開能力)を養成する教育も必要であると力説されておりました。

シンポジウムのテーマⅠでは、「薬学 6 年制教育における実務家教員の取り組み」と題して、北海道薬科大学薬学部の郡修徳先生ならびに北海道医療大学薬学部の小林道也先生に、それぞれの大学での実務家教員の取り組みの特徴について概説していただきました。

シンポジウムのテーマⅡでは、「薬学 6 年制教育に対する医療現場からの提言」と題して、まず始めに手稲溪仁会病院薬剤部の本郷文教先生より、「病棟業務と実務実習のあり方を考える」と題したご講演を頂きました。手稲溪仁会病院では大学 4 年生の 1 ヶ月実習だけではなく、半年間の大学院臨地実習も長年受け入れており、これまでの経験を踏まえた病棟実習の内容と今後の課題について説明していただきました。二人目の講師としては、太誠堂薬局の桂正俊先生から、「薬局における実務実習のあり方を考える」と題したご講演を頂きました。桂先生は、北海道薬剤師会において薬学実務実習委員会委員長をお勤めになられており、北海道における保険薬局実習の現状・課題と、受入薬局の形態を 6 つのタイプに分けた場合の特色について概説していただきました。三人目の講師としては、札幌南

三条病院薬剤部の佐藤秀紀先生より、「医療現場における臨床研究の推進」と題したご講演を頂きました。札幌南三条病院薬剤部において、1年次に約半年の臨地実習を実施済みの大学院生に対して、2年次では4月から12月までの長期間の実務介入型臨床研究を実施し、病院と大学双方にメリットのある教育を行うことができることを紹介して頂きました。

特別講演には、武庫川女子大学の松山賢治先生をお招きして、「薬剤師生涯教育への取り組み」と題したご講演を頂きました。武庫川女子大では松山先生が赴任して以来、医療現場の薬剤師に対してTDMを中心とした協力体制を確立し、また夜間の社会人大学院を開設するなどの支援を行っています。また、大学において行われている医薬品情報実習の実際をご紹介くださり、さらには松山先生自らが患者役となってベッドサイドにおけるコミュニケーション演習についてもご紹介頂きました。ご講演の最後には、武庫川女子大学において行われた第2回共用試験 OSCE ミニトライアルについて多くの写真を用いて紹介されました。多くの病院・薬局薬剤師の先生方にとって、OSCEとは具体的にどのようなものなのかを知る大変良い機会になったと思われました。

最後におよそ1時間の総合討論が行われました。各演者の先生方から、具体的であり分かりやすいご講演を頂いたことから、会場からは活発な質問・意見が出されました。これにより、本シンポジウムの目標である医療現場と教育現場の情報交換の活性化と、学生教育の更なる充実化の一助となったものと思われま

---

## 日本医療薬学会 第24回公開シンポジウム

「薬学6年制教育における医療現場と教育現場の連携を目指して」

主 催 : 日本医療薬学会  
開催日 : 平成18年10月15日(日)13:00~17:00  
会 場 : 北海道大学学術交流会館2F講堂  
〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目  
TEL: 011-706-2141  
最寄駅 JR札幌駅北口から徒歩7分  
参加費 : 会員・非会員とも無料(定員300名)  
オーガナイザー: 齊藤 浩司(北海道医療大学)

## ◎ プログラム

13:00~13:05 開会挨拶  
13:05~13:25 基調講演「薬学6年制教育がめざすもの」  
井関 健(北海道大学, 日本医療薬学会理事)  
13:25~14:05 テーマI「薬学6年制教育における実務家教員の取り組み」  
(1)郡 修徳(北海道薬科大学)  
(2)小林 道也(北海道医療大学)

- 14:05～14:50 テーマⅡ「薬学 6 年制教育に対する医療現場からの提言」  
(1) 病棟業務と実務実習のあり方を考える  
本郷 文教(手稲溪仁会病院, 札幌病院薬剤師会副会長)  
(2) 薬局における実務実習のあり方を考える  
桂 正俊(太誠堂薬局, 北海道薬剤師会常任理事)  
(3) 医療現場における臨床研究の推進  
佐藤 秀紀(札幌南三条病院, 札幌病院薬剤師会副会長)
- 15:00～16:00 特別講演「薬剤師生涯教育への取り組み(仮)」  
松山 賢治(武庫川女子大学)
- 16:00～17:00 総合討論  
17:00 閉会挨拶

お問い合わせ先:北海道医療大学薬学部 小林道也  
(TEL:0133-23-1193, Mail:platypus@hoku-iryo-u.ac.jp)

本シンポジウムは  
日本医療薬学会・認定薬剤師資格更新研修単位 10 単位  
日本病院薬剤師会・生涯研修認定 2 単位  
日本薬剤師研修センター集合研修単位 2 単位  
の各認定対象です。